

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【1】

【解答欄】

設問1

- (1) 雪が降ったことは、4月は春で暖かいので、雪が降ることはないという予想に反したことという逆接の意味をあらわす。
- (2) 前に提示した内容についての説明が「けど」の後に続き、話題提示の役割をしている。
- (3) 「けど」で文が終了し、その後が省略されている。省略部分には、「いろいろやってみただけど（どれもうまくいかなかった）」という逆接の内容が推測される。省略部分の推測は、聞き手にゆだねられる。
- (4) 「けど」で文が終了し、その後が省略されている。省略部分には「長谷川浩子さんですけど（ご存じではないですか?）」という内容が推測される。長谷川浩子さんという話題を提示し、相手からその話題についての情報提供を期待する話し手の意図を表している。こうした話し手の意図が実現するには、聞き手に察してもらう必要がある。
- (5) 「けど」で文が終了している。この会話では、「けど」は、会話の相手が「けど」の後に省略されていることを推測して反応することを期待するというより、会話の流れをそのまま自然につなげていくことを促す働きをしていると思われる。

設問2

この場合の「けど」は、(1) や (3) のような逆接の意味ではなく、話題提示の役割をするものと思われる。「けど」の後には「そちらはどなたですか?」「ご用件は何でしょうか?」などが省略されていると推測され、電話をかけたものが、この後、名前を言ったり、要件を話して、2人の会話が続いていくと考えられる。「佐藤です。」という表現と比べると、「けど」を文末に使う表現の方が相手にことばを続けさせるニュアンスが強く感じられ、上記例(5)のように、自然な会話の流れを促す役割を果たしていると考えられる。

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【2】

【解答欄】

設問1

一般的には、医師を含めた医療者は、患者の死を幾度となく経験しているため、次第に慣れてしまう、という状況があるかもしれない。しかしC医師は、尊敬している医師が、誰もいないところで泣き、悲しんでいるのをみて、やはり、患者の死に慣れてはいけず、悲しい時には、きちんと悲しむことが大切であるという考えを持っている。人を失うことは、大きな衝撃であるが、感情を鈍麻させず、その悲しみをきちんと受け止めることが重要であると捉えている。

設問2

採点基準

- ・「感情管理」や感情の「区画化」が求められる場面が、具体的に挙げられている。
保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学などの教育場面、
会社、地域での取り組み場面など
- ・各場面で、どのような「感情管理」や感情の「区画化」が必要なのか、また具体的にどのような対処するのか、理由を含めて、述べられている。

例えば、小学校での教師には、教育者としての立場が求められる。さまざまな児童がいるため、教師としては、時に対応に苦慮することがあるかもしれない。しかし冷静になり、なぜそのような問題が起きているのかを分析することが必要である。対応としては、その子の弱いところや強いところを再認識し、その子にあった対応をすることが大切であると思われる。また、1人で解決できない時には、同僚などに相談し、チームで解決に向けての努力をしていくことが必要である。しかし教師も、1人の人間である。「感情管理」や感情の「区画化」が重要ではあるが、感情を鈍麻させることに慣れずに、その都度、自分の心と向き合い、自分自身の本来の気持ちを理解した上で、真摯に諸問題への対応を行うことが大切である。

(受験番号

)

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【3】

【解答欄】

設問1

aは、子どもを室内に移動させることによって、近所の住民に、子どもたちの遊び声が届かないようにさせている。

bは、子どもと住民のふれあいの機会を作ることで、結果的に子どもたちの遊び声が小さくなるかどうかは不明であるが、住民に、子どもの様子や遊びを知ってもらうことにつながる取り組みである。

cは、園庭に騒音計測器を設置することで、子どもたち自身に、自分たちの声の大きさを知ってもらい、結果的に、遊び声を小さくすることを目指す取り組みである。

dは、騒音で住民が困っていることを子どもたちに説明することで、子どもたちが遊び声できるだけ出さないようにすることを目指す取り組みである。

設問2

対策としては、bがよいと思われる。

a、c、dは、いずれも、その対策の結果として、子どもたちの遊び声を減らそうという取り組みである。一方、bは、客観的な音量の変化は生じないかもしれない。しかし、住民とのふれあいの機会を通じて、住民に、幼稚園に通う子どもたちのことを知ってもらい、その様子をあたたく見守ってもらいたいというねらいがある。客観的には、それなりの遊び声があったとしても、それを受容可能なものとして、理解してもらいたいという取り組みである。

客観的な音量としては変化しなくても、住民たちの主観的な思いの変化により、子どもたちの遊び声がうるさいとは認識されず受け入れてもらえる可能性がある。

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【4】

【解答欄】

靴でないものを履いている絵・動画と靴を通常でない使い方（例えば、頭にのせる、シンバルのように胸の前でたたき合わせる、など）をしている絵・動画を提示し、「クックどれ？」と尋ねて、子どもがどちらに視線を向ける／指差しするか反応をみる。もし、クックが未分化な胚性詞の段階にあれば、前者を、分化していれば、後者を選択すると想定される。

(受験番号

)

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【5】

【解答欄】

設問1

①については、「すっかり忘れん坊になっちゃったみたい」と話しているため、自分の記憶力の低下を感じていて、なげているように思われる。

②については、介護施設に入所しているにも関わらず、「病院でしょ？」と言っているため、現在の状況をきちんとは理解していないと思われる。しかし「知らない人ばかりいるから、病院でしょ？」と、病院であると思う理由を述べているため、自分の過去の経験に基づきながら、今の状況を把握しようとしていると思われる。

設問2

このようなことばが発せられた時には、すぐに否定も肯定もせずに、なぜ、そのように思うのか、高齢者の話をしっかり聴いてみたい。それぞれのことばには、高齢者がそれまでの人生経験を踏まえて、現状になんとか適応しようとする様子が伺われる。したがって、高齢者の話をしっかり聴くことで、高齢者の気持ちを把握することができると思われる。また高齢者も自分自身の気持ちを吐露することで、「この人は私の話を聴いてくれる人」という安心感を持つことができると思われる。

設問3

このような高齢者に対しては、上記にも記したが、①まずはしっかりと話を聴くようにしたい。話を聴くことで、その人の人生経験や考えを把握できるため、その人達の支援に役立つと思われる。②介護施設であるにも関わらず、「病院でしょ？」などと話すような記憶力の低下が伺われる人に対しては、まずは、その言葉を否定も肯定もしないようにする。「知らない人ばかりいるから」などと述べているため、何らかの不安を感じている可能性がある。そのような不安を取り除くために、その人の好きなことを一緒に行う、一緒に散歩するなど、安心感をもってもらえるよう、心理面のサポートを行っていきたい。③コミュニケーションの難しさから、体調不良であったとしても、そのことをうまく述べられない可能性がある。そのため、普段から、きめ細やかに、体調や心理面などの状態を観察し、微細な変化や不調などを見落とさないようにしたい。

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【設問1】

【解答欄】

図10-1

5歳児では、読み得点と手指の運動調整能力を見るための模写課題得点に関しては、家庭の所得による差は認められないが、語彙力では、所得の高い家庭の子どもの語彙得点の方が高くなり、所得による差が見出された。高所得の家庭では、習い事など早期教育を受けさせることが多いと推測され、それが影響している可能性がある。(150字)

図10-2

習い事をしていない子どもより、している子どもの方が語彙得点が高かった。習い事の種類に関しては、学習系か芸術・運動系かの異なりは、語彙得点に影響していなかった。このことから、学習系の塾での学習で語彙得点があがるわけではなく、習い事の種類に関わらず、習い事を通して、いろいろな人と接し、子どものコミュニケーションの機会・幅が広がることが語彙の発達を促進すると推測される。(183字)

図10-3

自由保育と一斉保育の子どもの比較では、読む力、模写力では差が認められなかったが、語彙力では3・4・5歳児すべてにおいて、自由保育の子どもの方が勝っており、年長になるほど両群の差は広がった。小学校の教育を先取りした文字、計算、英語の学習より、子どもの自主性を重視し、自発的な自由な遊びを大事にする環境の方が、子どもは豊かなコミュニケーションを展開し、語彙獲得が促進されると推測される。(191字)

【設問2】

【解答欄】

A 幼児期にどのような保育形態の園で過ごしていたかが小学校での学力テストの成績に影響する。(43字)

【設問3】

【解答欄】

B 一斉保育より自由保育の方が、また、強制型しつけより共有型しつけの方が語彙力や学力により影響を与えているということから、子どもの自主性、自発性、主体性を尊重する大人の関わり方や環境の方が子どもの力を伸ばすと考えられる。(109字)

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【設問4】

【解答欄】

★採点のポイント

(1) 内容について：

- ・問題文（図を含む）に述べられているそれぞれの調査結果が正確に把握され、それらの情報を統合した解釈が簡潔にまとめられているかどうか。
- ・上記のまとめと「学力格差は経済格差を反映している」かどうかに関する受験生の考えが論理的に矛盾なく結びついているか。
- ・学力が経済格差の影響を受けないようにするための方策について、柔軟で具体的な案が提案できているか。
- ・論旨が明確であるか。

(2) 形式について：

- ・誤字脱字がないか。
- ・明解な文章であるか。
- ・文法的な誤りはないか。